

第2学年2組 国語科学習指導案

授業日 平成30年7月12日(木) 4校時

授業者 附属新潟小学校 指導教諭 里村 穰

会場 2年2組教室

1 単元名

“一番お気に入り”を紹介しよう ―教材文「お手紙」(東京書籍『新編 新しい国語』二上)―

2 本単元の価値

本単元は、新学習指導要領における第1学年及び第2学年の「1目標(3)、2内容〔知識及び技能〕(1)カ(2)ア、〔思考力・判断力・表現力等〕C読むこと(1)イ・エ(2)イ」を受けて設定する。

1 目標

(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

〔思考力・判断力・表現力等〕

C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

本単元で扱う教材文「お手紙」は、「がまくん・かえるくん・かたつむりくん」の3人が登場する物語文(※別紙資料参照)である。がまくんとかえるくんの応答を中心に物語が展開していく。特に、かえるくんの言動に関する言葉が複数用いられている。具体的には、次のような言葉である。

【かえるくんの会話の言葉】

- ・どうしたんだい ・かなしそうだね
- ・もう家へ帰らなくっちゃ
- ・しなくちゃいけないことがあるんだ
- ・もうちょっとまってみたら
- ・きっと、来るよ
- ・ぼくが、きみにお手紙出したんだもの
- ・親愛なるがまがえるくん

【かえるくんの行動の言葉】

- ・大いそぎで家へ帰りました
- ・家からとび出しました
- ・ふうとうにこう書きました
- ・まどからゆうびんうけを見ました
- ・まどからのぞきました
- ・二人は、げんかんに出て、お手紙の来るのをまっていました

この教材文を扱う本単元では、『お話リーフレット』をつくり、『お手紙』を1年生に紹介する」という言語活動を設定する。「お話リーフレット」とは、表面に登場人物とあらすじを、中面に一番お気に入りの登場人物の紹介を書く、言語活動に対応させた成果物である。

このような言語活動を行う本単元には、主に次の二点で価値がある。

一点目は、目的に応じて読もうとする態度を育成できることである。「お話リーフレット」は、登場人物、あらすじ、一番お気に入りの登場人物の紹介という構成としている。子どもは、それぞれを作成するために、目的に応じて読もうとする態度を発揮して教材文を読む。そして、完成した成果物を基に伝え合い、自らの学びを振り返ることで、発揮した態度を自覚することができる。

二点目は、登場人物の言動を表す言葉を基に、情報の扱い方に関する知識・技能や、叙述を基に登場人物の心情を想像する力等の資質・能力を育成することができることである。設定した言語活動には、登場人物の中からお気に入りだと思う人物を選んで、その人物像を紹介する活動を含めている。人物像をとらえるためには、その人物の言動に関わる言葉を手掛かりに考える。その際に子どもは、前述の資質・能力を発揮して人物像をとらえていく。そして、完成した成果物を基に伝え合い、自らの学びを振り返ることで、前述の資質・能力を自覚することができる。

これらのように、本単元で育成する資質・能力を子どもに発揮、自覚させることができるところに、本単元の価値がある。

3 本単元で目指す姿

かえるくんに関する複数の言葉を関係付けて読み、かえるくんの人物像をとらえる子ども

具体的には、文脈に即したかえるくんの言動に関する言葉の意味に着目して、かえるくんの言動に関する言葉とかえるくんの人物像とを関係付けて考えるという「見方・考え方」（以下、「**言葉による見方・考え方**」）を働かせ、かえるくんの言動に関する言葉を基にかえるくんの心情を想像する力（②**思考力・判断力・表現力**）等を発揮して、かえるくんの言動に関する複数の言葉を根拠に、想像した心情を理由として、かえるくんの人柄を表現する子ども

〈表現の例〉

かえるくんは、「しなくちゃいけないことがあるんだ」と言って、急いで自分の家に帰ります。「しなくちゃいけない」という言葉から、「悲しんでいるがまくんのために僕が手紙を書いて喜ばせてあげたい」という気持ちが分かります。また、がまくんと一緒にお手紙が届くのを「ながいことまって」あげます。「ながいことまって」という言葉から、「がまくんと手紙が届いたことを一緒に喜んであげたい」という気持ちが分かります。

どちらも友達ががまくんを喜ばせてあげたいという気持ちや一緒に喜んであげたいという気持ちが分かるので、かえるくんは友達のためにしてあげたいという優しさがあります。

4 本単元で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

単元カード参照

5 指導計画 全10時間

単元カード参照

6 指導の構想

子どもは、前単元「こえに出して読もう（教材文：風のゆうびんやさん）」（4月実施）において、学習課題「一番お気に入りの登場人物は誰か」に対して、叙述を基に登場人物の心情を想像する力（②**思考力・判断力・表現力**）等を発揮し、登場人物を紹介する「紹介カード」を書いた。

本単元において、『お話しリーフレット』をつくり、『お手紙』を1年生に紹介する」という言語活動を通して、育成する資質・能力の定着を図る。

一次では、まず、設定した言語活動を一学年担任からの依頼という形態で提示し、「お話しリーフレット」の形式を示す。これにより、言語活動への意欲を高める。

次に、教材文「お手紙」と出合わせ、繰り返し文章を音読させる。その後、「お手紙」の登場人物とあらすじとを問う。登場人物ごとに色分けして傍線を引かせ、内容の大体をとらえさせる。ここで、「お話しリーフレット」表面に、登場人物とあらすじとを記述させる。

そして、一番お気に入りの登場人物、その理由、根拠を問い、「お話しリーフレット」中面の下書きを書く場面を設定する。子どもは、一番お気に入りだと思った登場人物、その理由と根拠とを表出する。多くの子どもは、3人の登場人物の中から一番お気に入りだと思った登場人物としてかえるくんを選択する。例えば、「一番お気に入りの登場人物は、かえるくんです。一度もお手紙をもらったことのないがまくんにお手紙を出したので、優しいなと思いました。『ぼくが、きみにお手紙出したんだもの』という言葉から、そう思いました」などである（C0）。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

根拠となる言葉を複数例示し、感じた疑問とその理由とを問う。

問いをもたせ、学習課題の設定へとつなげるための働き掛けである。

まず、登場人物の中でかえるくんを一番お気に入りとする意見が最も多かったこと、優しいという理由が挙げられていたことを伝える。その後、かえるくんの人物像の根拠となる言葉を複数例示する。その際、直接的な表現の言葉（「ぼくが、きみにお手紙出したんだもの」「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」）と、間接的な表現の言葉（「しなくちゃいけないことがあるんだ」「家からとび出しました」）とを示す。これにより、子どもに違和感をさせる。子どもは、例示された言葉と自分が根拠とした言葉との相違に気付き、「自分の考えていた言葉とは違う言葉がある。どうしてその言葉でかえるくんの優しさ分かるのだろうか」と、問いをもつ。

次に、感じた疑問とその理由とを問い、記述させる。これにより、「**言葉による見方・考え方**」を引き出し、学習課題の設定へとつなげる。自分が根拠とした言葉とは異なる言葉が挙げられていることで、子どもは、例えば、「どうして『家からとび出しました』という言葉から、かえるくんの優しさ分かるのかが分からないから」と、**「言葉による見方・考え方」**を働かせ始める。このような子どもの発言をまとめ、「どの言葉から、かえるくんのどんな優しさを紹介するか」という学習課題を設定する。

働き掛け2

例示した言葉の分類と理由，その言葉を根拠とした理由を問うた後，学習の進め方を問う。

かえるくんの人物像をとらえる見通しをもたせるための働き掛けである。

まず，例示した言葉の分類と理由とを問う。これにより，かえるくんの言動に関する言葉が根拠となっていることを共有させる。子どもは，「かえるくんのした言葉と話した言葉との仲間になる」などと，かえるくんの言動に関する言葉が挙げられていることをつかむ。

次に，直接的な表現の言葉について，その言葉を根拠とした理由を問う。これにより，言葉を手掛かりに登場人物の心情を考えることを共有させる。子どもは，『ぼくが，きみにお手紙出したんだもの』から，お手紙をもらったことのないがまくんのことを思ってお手紙を書いたかえるくんの気持ちが分かるから」などと，かえるくんの言動に関する言葉を手掛かりにかえるくんの心情を考えることをつかむ。

その後，学習の進め方を問う。子どもは，「かえるくんがした言葉や話した言葉を探す」「その言葉からかえるくんの気持ちを考える」「かえるくんにどんな優しさがあるかをまとめる」などと，「**言葉による見方・考え方**」を明確にする。そして，「そのために，もう一度『お手紙』を読もう」などと，かえるくんの人物像をとらえるために読もうとする態度（③態度）を発揮して，課題解決の見通しをもつ。

働き掛け3

個人で読む場を設定した後，観点を提示して分かったことを伝え合う場を設定する。

かえるくんの人物像をとらえるのに必要な言葉を収集，整理させるための働き掛けである。

まず，ウエビング・マップを配付し，個人で読む場を設定する。これにより，物語の文脈に即してかえるくんの人物像をとらえるのに必要な言葉を収集させる。子どもは，教材文の中にかえるくんの言動に関する言葉を読み取り，ウエビング・マップに書き出す。また，かえるくんの言動に関する言葉を基にかえるくんの心情を想像する力（②思考力・判断力・表現力）を発揮して，かえるくんの心情を考え，その言葉の傍に書き出す。（ツール活用能力）。

次に，観点（見付けた言葉・その言葉から分かる気持ち・同じような気持ちが分かる言葉）を提示して分かったことを伝え合う場を設定する。これにより，解釈の交流を促し，かえるくんの人物像をとらえるのに必要な言葉を整理させる。なお，伝え合う場は，二人一組と全体との二つの交流の場を設定する。子どもは，例えば，『ながいことまって』という言葉を見付けた。この言葉からは，がまくんと一緒に手紙が届いたことを喜んであげたいという気持ちが分かる。「同じような気持ちは，かえるくんの『しなくちゃいけないことがあるんだ』という言葉からも分かる」などと，互いの解釈を交流し（協働性），かえるくんの人物像をとらえるのに必要な言葉を整理していく。

働き掛け4

かえるくんを紹介するために必要な言葉を問い，紹介する文章を書く場を設定する。

かえるくんの人物像をとらえるのに必要な言葉を判断して課題解決させるための働き掛けである。

「かえるくんの優しさを紹介するために，お話の中のどの言葉を使うか」と問い，かえるくんを紹介する文章を書く場を設定する。子どもは，情報の扱い方に関する知識・技能（①知識・技能）を発揮して，例えば，『しなくちゃいけない』という言葉と『ながいことまって』という言葉から，友達のがまくんのためにしてあげたいという優しい気持ちが分かるから，この二つの言葉を使って紹介しよう」などと，必要な言葉を判断する。そして，かえるくんの言動に関する複数の言葉を根拠に，想像した心情を理由として，かえるくんの人柄を表現する。

この一連の過程を通して，かえるくんに関する複数の言葉を関係付けて読み，かえるくんの人物像をとらえる子ども（Cn）となる。

働き掛け5

ペア発表会，振り返りの場を設定した後，人物像をとらえることができた要因を問う。

発揮した様々な資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

まず，とらえたかえるくんの人物像を伝え合うペア発表会を設定する。これにより，互いに成果を感じさせる。子どもは，とらえたかえるくんの人物像が伝わっていることを認め合う。

次に，振り返りの場を設定する。これにより，かえるくんの言動に関する言葉を見付け，それらの言葉を基にかえるくんの心情を考え，人物像をまとめてきた学習過程を辿らせ，感じた成果を価値付ける。

その後，人物像をとらえることができた要因を問い，記述させる。子どもは，ここまでの自分の学びを振り返り，例えば，「同じような気持ちが分かる言葉を使ってまとめることができた」（①知識・技能），「かえるくんの言ったりしたりした言葉からかえるくんの気持ちを考えた」（②思考力・判断力・表現力），「かえるくんの優しさを考えるために，教科書（『お手紙』）を読んだ」（③態度），「ウエビング・マップを使って言葉を集めることができた」（ツール活用能力）などと，発揮した様々な資質・能力を自覚する。

7 本時の構想 (本時 7/10時間)

(1) ねらい

かえるくんに関する複数の言葉を関係付けて読み、かえるくんの人物像をとらえることができる。

(2) 主張(展開) 45分

このような子どもに (C0)

- 前単元「こえに出して読もう」において、学習課題「一番お気に入りの登場人物は誰か」に対して、育成を図る資質・能力を発揮し、登場人物を紹介する「紹介カード」を書いている。
- 教材文と出会い、「お手紙」の登場人物とあらすじをとらえている。
- 一番お気に入りの登場人物を選び、理由と根拠とを表出している。

このように働きかけると【働き掛け1】

- 根拠となる言葉を複数例示する。
- ※ かえるくんが一番お気に入りの登場人物として多く選ばれていたこと、選んだ理由としてかえるくんの優しさが挙げられていたことを伝える。
 - ・説明「かえるくんを一番お気に入りだと選んだのは、この言葉からだそうです」
- ※ 直接的な表現の言葉（「ぼくが、きみにお手紙出したんだもの」「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」）を示した後に、間接的な表現の言葉（「しなくちゃいけないことがあるんだ」「家からとび出しました」）を示す。
- 感じた疑問とその理由とを問う。
 - ・発問「どこに『えっ』と思ったのですか。どうして『えっ』と思ったのですか」
- ※ ワークシートを配付し、感じた疑問とその理由とを該当欄に記述させる。
 - ・指示「どこに『えっ』と思ったのか、また、どうして『えっ』と思ったのかを教えてください」
- ※ 発言内容の理解、付け足し、異なる意見等を確認する。
- ※ 子どもの発言をまとめ、学習のめあて（学習課題）として板書（◎として示す）し、この学習のめあてでよいかを確認した後、ワークシートの該当欄に記入させる。
 - ◎どの言葉から、かえるくんのどんな優しさを紹介するか。

このようになり (C1)

- 問いをもつ。
 - ・ぼくも、かえるくんを選んだよ。だって、かえるくんは優しいから。
 - ・そうそう。「ぼくが、きみにお手紙を出したんだもの」という言葉から、誰からも手紙をもらったことのないがまくんのためにお手紙を書いたかえるくんの優しさが分かるよ。
 - ・「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」も、かえるくんががまくんに手紙を書いたことが分かるよね。がまくんのためにお手紙を書いたかえるくんの優しさが分かるよ。
 - ・えっ、どうして。わたしの考えていた言葉と違うよ。
- 「言葉による見方・考え方」を働かせ始める。
 - ・「しなくちゃいけないことがあるんだ」という言葉です。理由は、この言葉からかえるくんの優しさが分かるのかが分からないからです。
 - ・「家からとび出しました」です。かえるくんの優しさとつながらないと思うからです。
- ※ のように、例示された言葉に疑問を感じ、かえるくんの優しさにつながるかという旨の理由の記述があれば、通過とする。

このように働きかけると【働き掛け2】

- 例示した言葉の分類と理由とを問う。
 - ・発問「この四つの言葉を、二つの仲間に分けるとどうなりますか。また、どうしてその仲間に分けたのですか」
- ※ 子どもの発言を受けて、四つの言葉をかえるくんの言動で分類し、ラベリングする。
- その言葉を根拠とした理由を問う。
 - ・発問「どうして、こちらの言葉からは、かえるくんの優しさ分かるのですか」
- ※ 直接的な表現の言葉を示し、子どもの発言をその言葉の傍に整理して板書する。
- ※ 発言内容の理解、付け足し、異なる意見等を確認する。
- 学習の進め方を問う。
 - ・発問「この学習のめあてをクリアするために、これからの学習で何をしますか」
- ※ 発言内容に対して、その理由を問い返す。
- ※ 子どもの発言をまとめて順序立てて板書し、この学習の進め方でよいかを挙手で確認した後、ワークシートの該当欄に記入させる。

このようになり (C2)

- かえるくんの言動に関する言葉が根拠となっていることを共有する。
 - ・「ぼくが、きみにお手紙出したんだもの」と「しなくちゃいけないことがあるんだ」とで仲間になります。理由は、どちらの言葉も、かえるくんが言った言葉だからです。
 - ・「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」と「家からとび出しました」とで仲間になります。理由は、どちらの言葉も、かえるくんがした言葉だからです。
- かえるくんの言動に関する言葉を手掛かりにかえるくんの心情を考えることを共有する。
 - ・「ぼくが、きみにお手紙出したんだもの」という言葉からは、お手紙をもらったことのないがまくんのことを思ってお手紙を書いたかえるくんの気持ちが分かるからです。
 - ・「ふうとうにこう書きました。『がまがえるくんへ』」という言葉からも、お手紙をもらったことのないがまくんのことを思ってお手紙を書いたかえるくんの気持ちが分かるからです。
- 「言葉による見方・考え方」を明確にして、課題解決の見通しをもつ。
 - ・まず、かえるくんが言ったりしたりした言葉を探す。
 - ・次に、見付けた言葉から、かえるくんのどんな気持ちが分かるかを考える。
 - ・そして、かえるくんにどんな優しさがあるかをまとめる。
 - ・そのために、教科書（「お手紙」）を読む。(③態度)
- ※のように、かえるくんの言動に関する言葉からかえるくんの心情を考え、かえるくんの人物像をまとめていく旨の発言、または、発言に対する同意の挙手があれば、.....のように、③態度を発揮した姿として、通過とする。

本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け3】

- ウエビング・マップを配付し、個人で読む場を設定する。
 - ・説明「前の時間に、学習のめあてと学習の進め方が決まりましたね」
- ※ 掲示した学習のめあて、学習の進め方を全体で声に出して読ませ、確認する。
 - ・発問「『お手紙』のお話の中のどの言葉から、かえるくんのどんな気持ちが分かりますか」
- ※ 拡大したウエビング・マップで例示後、ウエビング・マップを配付し、個人で読ませる。
 - (例示) 見付けた言葉を書き、四角で囲む。その言葉から分かるかえるくんの気持ちを書いて丸で囲み、線をつなぐ。
- ※ ウエビング・マップの使い方に関する質問を受け付け、終了後に活動開始を指示する。
- ※ 「どうしてこの言葉からその気持ちが分かるのですか」などを、机間支援の際に問う。
- 観点を提示して分かったことを伝え合う場を設定する。
 - ・指示「ペアの人と、どの言葉から、かえるくんのどんな気持ちが分かるのか、そして、同じような気持ちが分かる言葉がどれかを話し合ひましょう」
- ※ 観点を提示して、全体で観点を確認する。
 - ・発問「同じような気持ちが分かる言葉は、どれですか」
- ※ 挙げられた言葉に対する理由を問い返す。
- ※ 子どもの発言を、拡大したウエビング・マップに書き込んでいく。
- ※ 発言内容の理解、付け足し、異なる意見等を確認する。

このようになり (C3)

- かえるくんの人物像をとらえるのに必要な言葉を収集する。
 - 【書き出す言葉と心情 (例)】 (②思考力・判断力・表現力, ツール活用能力)
 - ・「二人ともかなしい気ぶんで」ーがまくんを見ていると僕も悲しいという気持ち
 - ・「しなくちゃいけない」ー悲しむがまくんを僕が手紙を書いて喜ばせてあげたいという気持ち
 - ・「大いそぎ」ーがまくんのために早く手紙を書いてあげたいという気持ち
 - ・「家からとび出しました」ーがまくんのために早く手紙を届けてあげたいという気持ち
 - ・「ながいことまっていたいました」ーがまくんと一緒に喜んであげたいという気持ち
- ※のように、かえるくんの言動に関する言葉とその言葉からかえるくんの心情を考えている記述があれば、②思考力・判断力・表現力を発揮した姿として、通過とする。
- かえるくんの人物像をとらえるのに必要な言葉を整理する。(協働性)
 - ・「大いそぎ」という言葉を見付けたよ。この言葉から、早く手紙を書いてあげたいという気持ちが分かるよ。同じような気持ちが分かる言葉は、「家からとび出しました」だと思ふな。
 - ・「二人ともかなしい気ぶんで」という言葉を見付けた。この言葉から、一緒にいてあげたいという気持ちが分かる。同じような気持ちは、「ながいことまっていたいました」だと思ふな。
 - ・「ながいことまっていたいました」という言葉と「しなくちゃいけないことがあるんだ」という言葉とが、同じような気持ちが分かる言葉と思う。どちらの言葉からも、がまくんを喜ばせたいという気持ちが分かるから。

このように働き掛けると【働き掛け4】

- かえるくんを紹介するために必要な言葉を問い、紹介する文章を書く場を設定する。
 - ・発問「かえるくんの優しさを紹介するために、お話の中のどの言葉を使いますか」
- ※ ワークシートを配付し、どの言葉から、かえるくんのどのような気持ちが分かるから、かえるくんのどんな優しさを紹介するかを記述させる。

このようになる (Cn)

- かえるくんの人物像をとらえるのに必要な言葉を判断し、課題解決する。(①知識・技能)
 - ・かえるくんは、「しなくちゃいけないことがあるんだ」と言って、急いで自分の家に帰ります。「しなくちゃいけない」という言葉から、「悲しんでいるがまくんのために僕が手紙を書いて喜ばせてあげたい」という気持ちが分かります。また、がまくんと一緒にお手紙が届くのを「ながいことまって」あげます。「ながいことまって」という言葉から、「がまくんと手紙が届いたことを一緒に喜んであげたい」という気持ちが分かります。
 - どちらも友達のがまくんを喜ばせてあげたいという気持ちや一緒に喜んであげたいという気持ちが分かるので、かえるくんは友達のためにしてあげたいという優しさが分かります。

本時ここまで

このように働き掛けると【働き掛け5】

- ペア発表会を設定する。
 - ・指示「ペアの人に発表しましょう。聞く人は、どんなところがよかったか伝えましょう」
- 振り返りの場を設定する。
 - ・発問「ここまで、どのように学習を進めて、どのようなことができましたか」
- 人物像をとらえることができた要因を問う。
 - ・発問「かえるくんの優しさをまとめることができたのは、どうしてですか」
- ※ 振り返りシートを配付し、自分のしたこと、できたことを記述させる。

このようになる (Cn)

- ペアの人に、とらえたかえるくんの人物像を伝える。
- ここまでの学習過程を辿り、成果を表出する。
- 発揮した様々な資質・能力を自覚する。
- ・ 同じような気持ちが分かる言葉を使ってまとめることができた。 (①知識・技能)
- ・ かえるくんの言ったりしたりした言葉からかえるくんの気持ちを考えた。 (②思考力・判断力・表現力)
- ・ かえるくんの優しさを考えるために、教科書(「お手紙」)を読んだ。 (③態度)
- ・ ウエビング・マップを使って言葉を集めることができた。 (ツール活用能力)

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、 のようにかえるくんの言動に関する言葉を根拠に、想像した心情を理由として、かえるくんの人柄を表現したかをワークシートの記述から判断する。
- ② 働き掛け1・2を受けて、 、 のように、問いと課題解決の見通しをもっていたかをワークシートの記述、発言、同意の挙手から判断する。
- ③ 働き掛け2を受けて、 のように、**③態度**を発揮して目的に応じて読もうとしていたかを発言、同意の挙手から判断する。
働き掛け3を受けて、 のように、**②思考力・判断力・表現力**、**ツール活用能力**を発揮して、ウエビング・マップにかえるくんの言動に関する言葉を集め、集めた言葉を手掛かりにかえるくんの心情を考えることができたかをウエビング・マップの記述や発言から判断する。
働き掛け4を受けて、 のように、**①知識・技能**を発揮して共通の関係で言葉と言葉とを関係付けていたかをワークシートの記述から判断する。
- ④ 働き掛け5を受けて、 、 、 、 のように、発揮した資質・能力を自覚することができたかを振り返りシートの記述から判断する。